

# すわ光昭 県政だより

発行 者  
県民クラブ・公明 大町支部  
支部長：諏訪光昭

〒398-0002 大町市大町(下仲町)4067  
TEL：0261-23-7460 FAX：0261-23-7461



新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため各常任委員会室に質問席を設け、着席のままの質疑となりました

## ごあいさつ

日頃から、長野県議会の活動に対しまして、温かなご支援とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。新年度がスタートしました。真新しいランドセルを背負った新入生、フレッシュ感漂う新社会人の皆さんの躍動する姿が輝いています。

ロシアがウクライナへ侵攻し、約1か月半を過ぎました。大義の見えない侵攻に対し、国連総会決議において、3月2日のロシア非難決議に続き、3月24日にも深刻化する人道危機を「ロシアによる敵対行為の悲惨な結果」として遺憾の意を表明し、民間人保護などを求める人道決議案を140か国に上る国の賛成多数で採択されました。長引く戦闘により、多くの高齢者をはじめ女性、子どもなどが犠牲となっており、一部地域においては、ロシアの残虐行為を戦争犯罪として追及する取組みも始まっております。テレビなどの映像を通して悲しみと怒りが込みあげてまいります。今後、ロシアの侵攻が一刻も早く終息し、ウクライナおよび近隣国の皆様に平穏な日々が訪れることを心から願うばかりであります。

さて、県では、令和4年度当初予算により、最終年度を迎える「しあわせ信州創造プラン2.0」の総仕上げを図るとともに、コロナ禍や自然災害等により基盤が揺らいでいる「確かな暮らし」を守る施策、脱炭素社会の構築など中長期的な課題に挑戦する施策など、6つの重点テーマを推進するため、令和3年1月補正予算と一体的に取り組みます。県内におけるコロナ感染者数が未だ高止まりが続いており、収束が見えない状況にはあります。県議会といたしましても、県民の皆様の命と健康、暮らしと産業を守り、誰もが活躍できる活力あふれる信州を目指し、諸施策を推進してまいります。県民の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

一昨日15日、立山黒部アルペンルートが全線開通となり、いよいよグリーンシーズンの幕開けとなりました。春の風物詩とも言うべき「雪の大谷」は、3月の降雪により雪の壁の高さも18m超と過去最高に迫る高さとなりました。コロナ前は、海外から大勢の訪日外国人客が訪れ、同ルートや大町温泉郷も賑わう時期ではありますが、未だ収束しない新型コロナウイルス感染症の影響により、3年連続、静かな幕開けとなりました。今月3日より善光寺御開帳がスタートし、また、諏訪御柱祭りも開催されるなど、県内で4つの盛儀・大祭が開催されますことから、今年が、観光NAGANOの回復に向けた年となることを願っております。

長野県議会議員 諏訪 光昭

## 県議会 令和4年2月定例会(会期：2月16日～3月16日)の報告

令和4年2月定例会が開催され、知事から令和4年度一般会計予算並びに令和3年度1月補正予算、監査委員の選任をはじめ、「長野県犯罪被害者等支援条例案」及び、「障がいのある人もない人も共に生きる長野県づくり条例案」などの議案が提出されました。本会議での一般質問や委員会では、提出議案の他、様々な課題についても活発に議論しました。

審議の結果、最終年度を迎える「しあわせ信州創造プラン2.0」の総仕上げを図るとともに、6つの重点テーマを推進するため、令和3年度1月補正予算(885億5,932万5千円)と令和4年度当初予算(1兆848億9,672万4千円)を、一体的に編成された総額1兆1,734億5,604万余の予算案など、知事提出議案73件議員提出議案9件を原案のとおり可決、同意または承認しました。議員提案の「県民の希望をかなえる少子化対策の推進に関する条例」も可決しました。

## 令和4年度当初予算案のポイント

### ～「確かな暮らし」を守り、誰もが活躍できる活力あふれる信州へ～

令和4年度当初予算により、最終年度を迎える「しあわせ信州創造プラン2.0」の総仕上げを図るとともに、コロナ禍や自然災害等により基盤が揺らいでいる「確かな暮らし」を守る施策、脱炭素社会の構築など中長期的な課題に挑戦する施策など次に掲げる6つの重点テーマを推進するため、令和3年1月補正予算と一体的に編成。

#### 1 新型コロナから県民の命を守り、暮らしと産業を支える

新たな変異株や次なる感染の波に備えるため、ワクチン接種体制の整備や療養・検査体制の確保を進めるとともに、暮らしの支援の充実、県内経済の下支え、雇用の確保等に取り組む

#### 2 災害に強い県づくり

度重なる災害からの復旧・復興を着実に進めるとともに、災害の教訓を活かした防災・減災対策や「逃げ遅れゼロ」等の推進により県民の安全・安心な暮らしを守る

#### 3 産業・暮らしのコロナ禍からの復興

地方回帰やデジタル化の動きを捉え、信州回帰プロジェクトや長野県DX戦略を推進するほか、企業等の積極的な事業展開への支援や海外等との未来志向の交流を充実し、人と企業に選ばれ、活力ある信州を実現

#### 4 脱炭素社会の構築

多様な主体の力の結集により長野県ゼロカーボン戦略の目標を達成するため、地球温暖化対策条例を改正するとともに、交通、建物、再生可能エネルギー等の各重点分野の支援策を拡充し、脱炭素・地球温暖化対策を本格化

#### 5 誰一人取り残さない公正な社会づくり

全ての県民が明日への希望を持ち、安心して暮らすことができるよう、誰もがお互いの違いを認め合う共生社会の実現や、犯罪被害者等を支援する体制の整備、若者・子育て世代の希望を実現できる環境づくり、看護職員をはじめとする現場で働く方々の処遇改善等を推進

#### 6 誰もが主体的に学び続けられる社会づくり

子どもから大人まで全ての県民が主体的に学び、個々の持つ能力を社会の中で発揮できるよう、創造力を育むための学びの環境や、時代に適応する能力を身に付けられるリカレント教育・リスキリングを充実

## ●ICT教育について

### ■議員の質問・質疑

市町村立小中学校の児童生徒のICTスキルに大きな差が生じないようにするための支援について伺う。

### ●教育長答弁

長野県ICT教育推進センターでは、どの学校の児童生徒も、クラウドを活用してインターネット上で繋がり意見交換等ができることを本年度の目標とし、教員のICTスキルを高める取組を行ってきました。具体的には、学校の困りごとに応じて指導主事が学校を訪問し、端末の利活用体験やICTを活用した授業実践の紹介をすること、教員が参集しなくても機器の操作等を学べるオンライン研修会の実施、先進的な取組を行っている学校の実践を各教育事務所から発信したり、信州大学と連携して教員の相談にオンラインで答える「教育DXお悩み相談室」の開催など、様々な研修や情報発信を行ってきたところであり、今後、各市町村や各学校の状況を把握し、それぞれの実態に応じた最適な支援によりまして、全県の児童生徒のICTスキルにできる限り差が生じないように努めてまいります。

## ●奨学金制度と奨学金返還支援制度の創設について

### ■議員の質問・質疑

若者・子育て世代への支援の観点から、奨学金制度と奨学金返還支援制度が同時に創設される意義と効果について、長野県の将来を担う若者への期待と伝えたいと思いを伺う。

### ●知事・部長答弁

新しい奨学金制度は、県内出身の学生が県外へ進学する際の費用を支援することで、経済的負担の軽減、そして進学の希望を後押しするものと考えております。

また、奨学金返還支援制度につきましては、就職後の経済的負担を軽減することによりまして、若者の県内企業への就職を促すとともに、結婚、子育て等、次のライフステージへ進んでいただくことを後押ししようとするものでございます。

この2つの制度を同時に創設・開始していく訳ですが、少しでも経済的不安感の軽減につながる、また少しでも進学を経済的な側面から迷っている子ども達の背中を押すことができればと思っています。

長野県の発展を願う知事の立場といたしましては、ぜひ若い世代の皆様が長野県で暮らすこと、そして長野県で働くことを、人生の選択肢の中にしっかり入れていただくことを強く期待するところであります。

## ●障がいのある方の支援について

### ■議員の質問・質疑

県内の障がい福祉施設における文化芸術活動(創作活動、発表活動、鑑賞活動)の現状について伺う。

### ●知事・部長答弁

県の調査では、111の福祉施設が日中活動として文化芸術活動に取り組んでおり、年々増加傾向にあり、特色ある活動としては、美術館や民芸店等と連携した作品展の開催や、障がい者と地域住民が一緒になってミニギャラリーや公園の再整備に取り組む活動などが挙げられます。

こうした活動に取り組んだ効果として、障がい者の自主性や主体性の向上、地域住民との交流の機会の拡大等が報告されており、文化芸術活動が障がい者の自立や社会参加に果たす役割は大きいものと認識しております。

## ●誰一人取り残さない公正な社会づくりについて

### ■議員の質問・質疑

コロナ禍が長期化する中で、困難を抱える女性はさらに増える懸念があり、支援の継続が求められる。現在行っている事業の状況を踏まえ、さらに支援を充実すべきと考えるが、来年度以降の方向性や展開について伺う。

### ●知事・部長答弁

相談窓口を新たに設けましたこども食堂につきましては、子育て家庭を中心にコロナ禍で不安や困難を抱える女性が気軽に利用できる場所であることから、予想を上回る相談が寄せられたところであり、コロナの影響が長引く中で、引き続き相談・支援のニーズがあると考えております。新年度は相談対応を行うこども食堂の数を6か所から26か所に増やしてまいりたいと考えております。

また、事業の委託を行わない県内各地のこども食堂においても、地域の実情に応じた支援の取組が行われるように、信州こども食堂ネットワーク等を通じて、これまでの取組のノウハウを共有してまいります。

なお、生理用品の提供につきましては、今年度、企業や団体からこども食堂を運営するNPO法人に対して寄付をいただく仕組みが構築されてまいりましたので、来年度は、その仕組みを活用して、こども食堂での提供を継続してまいります。

## ●新型コロナウイルス感染症への対応について

### ■議員の質問・質疑

新型コロナウイルス感染者で、療養中の体調変化に対応するための電話診療も含めた医師による診察の体制や薬の処方、自宅への迅速な送付等の体制整備の状況はどのようになっているか。

### ●知事・部長答弁

本県では、自宅療養者の症状が増悪した場合、重症化の恐れが認められる患者については、保健所が受入医療機関での受診・入院の調整を行っております。また、発熱などの症状が生じた軽症者については、保健所から登録医療機関に依頼し、電話診療等を実施して、薬の処方が必要な場合は、医療機関から連携薬局に処方箋を送り、薬局が患者の自宅へ届ける仕組みを構築しているところでございます。

## 県議会新体制がスタート

例年、2月定例会では役員改選が行われます。第96代議長には、丸山栄一議員(中野市・下高井郡・自由民主党県議団)、第100代副議長には高島陽子議員(長野市・上水内郡・改革・創造みらい)が選出されました。

同じ会派県民クラブ・公明の第99代副議長を務めた清水純子議員においては、宮本衛司前議長を支え、これまで経験したこと

のない長期化するコロナ禍の厳しい環境のもとで、円滑な議会運営に尽力いただきました。お疲れ様でした。

また、常任委員会等の委員会構成も改められました。私は、環境文教委員会に所属することになりました。環境文教委員会は、地球・自然・生活環境の保全、廃棄物対策、学校教育の充実、生涯学習の推進、文化財の保護、スポーツの振興などについて調査や議案等の審査を行う常任委員会です。一生懸命取り組んでまいります。